

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907816	
法人名	医療法人寿光会	
事業所名	ぐるーぷほーむ『せきがみ』	
所在地	秋田県鹿角市十和田大湯字前田29	
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成29年9月13日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同法人の医療機関や老人施設との連携体制が整備されており入居者が安心できる環境となっております。職員は、入居者が安心してその人らしく暮らせるよう理念を立て、実践出来るよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域住民とは野菜等のおすそ分けする関係にとどまらず、避難訓練への参加協力や入居者が外出した際の見守り隊の役割を担っている。また、運営推進会議は介護人材、勉強会情報、災害についてと多岐にわたって情報共有しており、母体である医療法人本部及び市との連携が強みとなっている。勤務する介護職員の60%以上は介護福祉士資格を有しており、専門知識と技術でケアの質の向上の一端を担っている。更に主体的に積極的に職員の資質向上に取り組んでいる。役職を問わず、職員間のコミュニケーションは良好で、2ユニットの入居者を全職員がケアしており、一人ひとりのニーズに応えるべく実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支えあい、認め合い、安らげる生活の場」を開設当初からの理念としております。その上で私達の目標を立て実践に努めています。	運営理念の他に職員で作上げた「私たちの目標」として、「支え合い 笑顔で過ごします」と掲げ、休憩室や廊下等に掲示している。言葉で伝わらない時も入居者とアイコンタクトを図り、笑顔で過ごせるように日々ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事、避難訓練を通じ交流している。又季節物の野菜、花を頂いたり高校生のインターシップの受け入れを行っている。	小学校合唱部や高校盆踊り同好会等慰問があり、子供たちとの交流が図られている。また、地域住民から野菜や果物をおすそ分けしていただいたりと、顔の見える関係づくりができています。日頃の感謝の気持ちとして「タンポ会」と称し、家族や地域住民を招いて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホームの見学、相談はいつでも対応できるよう心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況や行時等の報告を行い、頂いたご意見を取り入れている。	入居者の状態や行事の報告にとどまらず、参加者から避難訓練後の助言や市長寿支援課からは水害対策について意見をいただき、同敷地内有料老人ホームと合同で、10月に避難場所である市民センターへ訓練を行う予定となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂いたり、市のグループホーム連絡協議会への参加で情報交換している。又事例検討を通して意見交換しサービス向上に繋げている。	市長寿支援課から運営推進会議を通じて、市主催の認知症ケア研修の情報をいただき参加したり、出前講座を事業所に呼んで、感染症の学習会を開催したりと行政と協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い理解するよう努めている。入居者様の安全を考慮し、職員が手薄になる時は施錠している。施錠に関してはその都度話し合い拘束をしない方向性を考えている。	窓から外に出ようとしたり、外出したケースがあり、受診等で職員の体制が整わない場合は施錠を行っているが、ミーティングで鍵をかけることへの弊害を職員で話し合い、施錠する時間を短くできるよう工夫している。また、入居時に家族へ施錠の理由説明をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加、又ホーム内職員研修のひとつとして行っている。入浴時等、入居者様の体の変化に注意し報告、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、研修報告を通じて職員全員で情報を共有しているが詳しくは理解できていないと思われる。利用されている入居者様を通じて少しずつ理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が都度説明している。不安や疑問をよくお聞きし説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時ご意見を伺ったり玄関に意見箱を用意している。	家族面会時に入居者の状態報告と共に、意見や要望を引き出せるように場面づくりをしている。いただいた意見等は出勤職員で内容を共有し、管理者へ報告、対応について家族へ回答をしている。職員の異動についても行事予定案内へお知らせとして家族へ周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からでた要望については管理者が法人本部に報告し対応している。	日常的に、またミーティング内でも職員は主任及び管理者へ意見を言える環境にある。職員の要望が法人本部へ報告され、待遇改善につながった。ホールにエアコンの設置がなく、寒天や水分を多めに摂取していただく等工夫をしたが、水分管理だけでは健康状態を保つことが不十分として意見をあげ、エアコン設置予定となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力を把握している。代表者へ伝えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させて頂いている。研修報告会、回覧を行い職員全員で共有している。研修案内を掲示し希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会で情報交換出来ている。又全職員が参加できる研修会もあり、交流も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談、ホームを見学して頂いた際、不安事や要望を伺い安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで頑張って来られたことを受け止め、ご意見や要望を伺い協力し合える関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々なことを教えて頂きながら、職員と入居者様という関係ではあるが家族という思いで対応させて頂いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし、信頼して頂けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力もとで墓参り、馴染みの床屋利用など可能な限り本人の希望に沿った支援を行っている。	入居時に本人、家族、担当ケアマネージャーから生活歴を聞き取り、今までの交流関係や社会とのつながりが途切れないよう家族の協力のもと、墓参りや床屋、孫の行事へ参加出来るよう支援している。また、職場の同僚だった友人にも面会している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しつつ孤立しないようお互い関わり合えるよう支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様やご家族が安心して生活が送れるよう経過をフォローし相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の会話の中で本人より聞き取りその思いに沿えるよう努めている。困難な時は、ご家族様から伺い意向に沿った支援を行っている。	何気ない日常の会話から意向の把握に努め、実践できるように検討している。ムセがあってもラーメンが食べたいという要望をケアプランに目標としてあげ、家族へ同意をとり、摂取できた成功事例があった。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、ご家族様からの情報等を把握し理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや最近の情報について連絡簿から把握し一人ひとりの本日の状態を反映したケアとなるよう努めている。入居者様の状態を観察している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決め、意見を出し合い、入居者様ご家族より意見を伺い、介護計画を作成している。	全職員が入居者の状態を把握しているため、日々の生活状況や意見を連絡ノートに記し、居室担当が意見を集約し、本人及び家族の意向を反映させ、介護計画を作成している。また、介護計画書は回覧にて全職員が周知できるようになっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過を記入、連絡ノートに気づきや工夫を記入し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカ演奏、高校生の盆踊り同好会に来ていただいたり等楽しむ機会を設けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様、ご家族の希望を慎重している。かかりつけ医、薬局の変更の際は相談し決めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、受診時は状態や病状を理解いただくため、可能な限り家族へ同行依頼している。家族対応が困難な場合は、受診結果を報告している。最寄の薬局では薬の配達を行っており、届けてくれている。薬の疑問点や使用について指導してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問する(医療連携契約)看護師に一人ひとりの状態を報告している。又受診の相談や受診時の助言を得ている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者との情報交換に努めている。緊急時に対応できるよう総合病院と契約している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のケアプラン説明時今後について話し合いを行っている。法人内に診療所及び老健があり、重度化、終末期を迎えた入居者様、ご家族に対して法人としての取り組みを説明し連携を図りながら対応している。	最期までのお看取りは実施していないが、入居時に「重度化した場合における対応に係わる指針」をもとに家族へ説明、配布している。最期までホームでと望まれる家族には、本人にとっても負担であることを、状態変化に合わせ、何回も家族と話し合いの場を設けている。系列老健と連携を図り、本人及び家族が不安にならないようスムーズに転院できるよう環境調整をしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが消防職員を講師として招き救命救急勉強会を7月に行った。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や自治会役員の方々のご協力を仰ぎながら年2回の訓練を実施している。周辺には同法人の施設があり緊急時の応援体制が築かれている。10月には隣接している施設と合同で災害の訓練を予定している。	避難訓練時には自治会長、民生委員、地域消防団、地域住民も参加し、協力体制が整えられている。市防災ラジオを設置し、食料や飲料用専門タンクを準備し、災害時に備えている。10月に水害を想定し、系列有料老人ホームと合同にて避難訓練予定となっている。前回評価で指摘された、非常口階段は簡易スロープを用意し、改善されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関することが他入居者様に知られないように言葉掛け等注意している。	言葉かけを間違くと気分を損ねる場合もあるため、人生の大先輩として敬意を払い、自尊心に配慮し、言葉かけを工夫している。衣類を汚してしまった際は、他入居者に知られないようさりげなく衣類交換できるよう配慮対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服やおやつを選択等簡単な物ではあるが自己決定を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになっている事が多い。ご希望を主張できる方に関しては内容に沿えるよう支援を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その方らしさ」を心掛けている。本人の希望に沿えるよう支援していきます。食事のエプロン使用は出来るだけ服と一体化した職員の手作りを使用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けが出来る方はご自身で下膳して頂いている。食事の準備に関しては感染症の観点から一緒に行っていないが食器吹き、テーブル拭きなど出来る方にお手伝いして頂いている。山菜の下ごしらえ、野菜の収穫をして頂き楽しんで頂いている。	中庭が建物の中心に位置し、畑となっている。入居者は野菜の成長を見て、収穫時期を判断し、職員と共に自ら収穫して。調理担当を決め、何を食べるか、野菜をどう調理するか、入居者の食の関心を引き起こせるよう相談しながらメニュー作りをしている。だまっこ鍋の時はだまっこ作り、味噌つけたんぽは味噌を塗ってもらったり、食器の下膳したりと、出来ることを行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はご本人に合わせて対応し提供させて頂いている。水分量はこまめに飲んで頂き確保出来るよう努めている。入居者様にもバランスよく食べて頂けるよう勧めている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に対応している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で排泄時間を共有し仕草等にも目配りしながら支援している。状態によっては、布パンツやリハビリパンツに替えて対応している。オムツに関しては状態に合わせた使用とするなどの工夫をしている。	排泄時間、失禁、排尿、排便、下剤服用と細かく項目を分け、把握しやすいよう工夫している。立位困難でも本人のトイレに行きたい気持ちを考慮し、おむつではなく、トイレで排泄できるよう誘導を行っている。また、取り組み状況を連絡ノートに記し、実践と効果を検証できるよう仕組みづくりがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、毎朝ヨーグルト、昼には手作り寒天を提供している。牛乳などの提供時間を工夫し食して頂いている。簡単なリハビリ体操も含め便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望する時間帯での入浴は出来ない湯船の温度や入浴時間の長さなど入居者様の希望に沿った支援を行っている。	楽しく入浴できるように、歌好きな方には歌を聞きながら気持ちよく時間を過ごせるよう工夫している。湯船の温度は本人が自らお湯を出し調節している。前回評価で指摘された改修については、浴槽内階段段差が高く、入居者からも怖いとの声があり、固定踏み台を設置し段差を軽減、浴槽への出入りを安全に昇降できるよう手すりを設置した。また、浴室入口脱衣室に縦手すりを設置し、改修している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度を気にかけて快適に休んで頂けるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について分からない事は、調べたり、(医療連携)看護師、かかりつけ医、薬局へ相談してりと理解するよう努めている。状態の変化は受診時報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を活かした役割の支援を行っている。ドライブ、ボランティアを招く等楽しみ事の提供している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に沿えるよう努めている。散歩やドライブなど外出の機会を作っている。	行事担当者が日常とは違う体験をと考慮し、毎月の行事を企画し、花見を楽しんだり、ラーメンを食べに出かけたりしている。入居者の希望により、日に2回散歩に出かけることもある。地域住民と顔馴染みとなっており、入居者が1人で外出した時は、事業所に連絡を入れてくれたり、危ないよと声かけをしてくれたり、地域と協力しながら、外出を可能にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因になり易いためお金の所持はご家族様管理の上でと言う事にさせて頂いている。入居者様希望の物は「立替」で処理、購入している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様より希望があった場合、不穏時は安心できるようご家族様とお話が出来るよう支援している。手紙は年賀状のみとなっている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、職員手作りの絵を貼り、出来るだけ居心地の良い空間作りを心掛けている。	ホールに手作りの大きな日めくりカレンダーや季節に合わせた花、絵や折り紙を飾り、時や季節が分かる工夫をしている。入居者がすぐ目に入るようにトイレの表示や居室ネームは目線の高さに合わせて設置している。ホール内のテレビは録画した入居者世代の音楽をかけており、各々手拍子をとって楽しまれていた。居心地良く過ごせるよう環境づくりをしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、廊下にはベンチ、椅子テーブルを置きくつろげる空間作りを心掛けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた馴染みの家具等を置き、落ち着いた生活が送れるよう配慮している。仏壇を持参されている方もいる。	ダンスや仏壇、こたつ等身の回りの物を持参し、居室内はなじみのものが数多くあり、精神面の安定につながっている。居室窓からは田園風景が広がり、開放的である。稲の成長と共に四季が感じられる情景があった。前回評価で指摘されたFFストーブの外壁排気管については、本部職員が敷地内管理棟で勤務となり、除雪対応しているため改善した。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の名札、トイレの表示など、入居者様の目線に合わせる等の工夫をしている。ホーム内には手すりがあり安全に配慮している。		